

万九千社まぐせのやしろ 立虫神社たちむしじんじや
 社報
 神戸の郷かむべさと
 第七一号 令和二年神在月
 「発行」十一月吉日 代宮家よこや
 (錦田)



今季の祭 その一

万九千さん

全国では神無月とよばれる旧暦十月を出雲地方では神在月と呼び慣わしてきます。
 日本中の八百万神やおよろずのかみが出雲へ参集されると伝えられるからです。
 私たちのお護りする万九千社では、神々が神議りの締めくくりと直会なほらひを催し、明朝早く、諸国へとお旅立ちなさると伝えてきました。

まもなく日本中の神様が、私たちの住まいするこの土地のお宮へとお越しになります。
 皆様おそろいでお参り下さい。

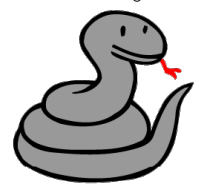
十二月一日
 (火) 早朝

※旧暦の十月十七日

一、龍神祭、
 お忌み入り

龍蛇りゅうじやさまを先導役とし八百万神を斐伊川でお迎えする祭です。
 古くから、宮司一人が人知れず行う秘儀とされ、夜明け前に斐伊川の水辺で行います。

水辺での神事が終わると、宮司は神籬ひもろぎ(榊の木)に遷られた神々を万九千社へと御案内します。神迎えの祝詞を奏上し、当社は
 お忌み入りとなります。



十二月一日(火)
 十日(木)

※旧暦の十月十七日～二十六日

一、神在祭
 お忌みさん

日本中の八百万神さまは、十日間にわたり、当社に神集い、人々の縁結びや諸産業の繁栄など生きとし生けるものにとって大切な事柄について話し合いをなさるいただきます。

毎日お供え物を献じ、天下泰平、五穀豊穰、日本と世界の平安と繁栄



を祈念する祝詞を奏上します。
 また、この期間に参拝者の願いに応じた特別祈禱を行います。
 御神酒もこの期間に限りまして、からさで祭にちなんだ「からさでの梅酒」になります。
 古来、神在祭のことを地元では「お忌みさん」と呼びました。「お忌み」とは、神々の滞在や会議を邪魔しないように、忌み慎んだ祭事や生活をすることを言います。



戸を閉ざした社殿内で宮司ほか数名が奉仕します。
 明日の神等去出祭を前に、宮司ほかの奉仕者が神社に布団を持ち込んで一夜を過ごす、「お籠もり」の神事も行います。
 これには、神々のおそばで忌み籠もることで、心身の清浄を極め、靈魂を鎮める意味があるとされます。

一、前夜祭

十二月九日（水）
 ※旧暦の十月二十五日

一、大祭

十二月十日（木）
 ※旧暦の十月二十六日

・午前九時
 （正午頃）特別祈禱、
 神在みくじ等
 ・午後五時
 湯立神楽
 ・午後六時
 神等去出神事

万九千社にとつては、一年で最も重要な祭儀です。

平成二十九年からは、明治初期以来途絶えていた「湯立神楽」を復興しました。

この神楽は、神さまの旅立ちを前に神々と人々の前途、祭場・祭員・参拝者にまつわる全てのモノ、コト

を清々しく祓い清めるものです。



その後、神殿祭を行い、たくさんのお供え物をして会議の締め括りと直会（なおりい）をなさる全国の皆さまを静かにおもてなします。

日没頃には、神々に明朝の旅立ちの時が近づいたことをお告げする神等去出神事を行い、今後も全国の人々の幸をお守りいただくべく御祈念します。この神事が「からさでさん」と呼ばれています。

宮司が神殿の御扉を梅の小枝で叩きながら、「お立ち、お立ち、お立ち」と三度唱えて神事を閉じます。



こののちは、神のみぞ知る時間と空間：神々の直会が始まります。私たち人間は、神々の邪魔をしないように一斉にその場から立ち去らねばなりません。

夜中に境内に立ち入ったり、のぞき見ると神罰が下ると恐れてきました。

新！名物

からさでそば（釜揚げ）

大祭日の昼前から、平成三十年に復活しました、万九千さん新名物、釜揚げの出雲そば：名付けて「からさでそば」の店がでます。出雲の老舗、玉木製麺さんが出店

今季の祭 その二

十二月十一日（金）
午後三時より

一、あとまつり
一、立虫神社
新嘗祭

万九千社から神々が無事に旅立たれたことを寿ぐあとまつりに合わせ

まして、今年収穫されたお米をはじめとする新穀を万九千社と立虫神社の神々にお供えする新嘗祭を齋行します。

農業はもとより諸産業繁栄の感謝を申し上げ、人々の幸福と弥栄を祈念します。

※※※お供え、お米当番の方は、午後二時までに、神社参集殿へお供えのうえ御参拝下さい。

お知らせ

〔各種感謝状・表彰状の受賞〕

このたびは本社本庁、本社庁より令和二年十月一日付をもちまして、次のとおり感謝状・表彰状が発行されました。さる十月四日立虫神社秋祭奉祝祭に際して、受賞者に伝達申し上げます。受賞の栄に浴されました皆様は、誠にありがとうございました。この場を借りて改めてご披露致します。(以下、敬称略)

一・本社本庁統理 鷹司尚武様より 多額の浄財に対して感謝状

- 万九千社立虫神社遷宮奉賛会役員一同
- 立虫神社総代会

二、島根県神社庁長 角河和幸様 より 生前の多大な功績により表彰

- 元神社総代 故 山根常男

三、島根県神社庁長 角河和幸様 より

★万九千社立虫神社 平成の御遷宮に かかる奉賛の誠に対して感謝状

- 万九千社立虫神社崇敬者 深津一統
- 同 竹内一統
- 万九千社立虫神社神代神楽保存会
- 万九千社立虫神社伶人・臨時出仕 深津宗敬
- 同 遠藤善夫
- 同 湯原稔
- 同 矢野博美

★立虫神社平成の御修造にかかる 奉賛の誠に対して感謝状

- 立虫神社 責任役員総代長 矢野幹雄
- 同 責任役員副総代長 山根陽一
- 同 責任役員総代 竹内房雄
- 同 責任役員総代 矢野俊之
- 同 総代 今川宏樹
- 同 総代 小田川 淳
- 同 総代 坪倉良治
- 同 総代 竹内浩二
- 立虫神社 前責任役員総代 遠藤善夫
- 立虫神社 前総代 竹内保徳
- 同 前総代 黒川 明
- 同 前総代 影山 朗

《あとがき》▼今年も当社で最も大切

な神在祭、神等去出祭、「万九千さん」の季節を迎えました。神立、千家の地を多くの参拝客が来訪なさることでしょう。皆様の温かい「おもてなし」をお願い申し上げます。▼今年も好評の「神在みくじ」(別紙参照)を十一月十五日から十二月十一日まで行います。明年の吉兆を期して、どうぞお参り下さい。(文責 宮司 錦田剛志)